

第4回（10月22日）研修会報告

「U.D.L 海外視察報告とラウンドテーブル」

講師：早稲田大学教授 高橋あつ子先生 NY州サイコロジスト バーンズ亀山静子先生

報告者：早稲田大学院生

今回の研修は、インクルーシブ教育が最も進んだ米国の「学びのユニバーサルデザイン（UDL）」の視察報告を通して、UDLの理解を深め、実践に活かすことを目的に開催しました。

報告に先立ち、高橋先生からUDLの概論について、ご講話いただきました。UDLは、児童が主体的に取り組む学習者中心の教育であり、学びの特性に応じた方策が多様であること、そして、なぜ学ぶか、何をどのように学ぶのかという、学び・成長する方法の獲得を重視している等、UDLのポイントを整理していただきました。

院生による視察報告では、「学びのユニバーサルデザインガイドライン」に基づいた取り組みの中から、「目標」「環境」「学習活動」「評価」の実際について、それぞれ以下の内容で説明がありました。

- ・ゴールが明確な目標設定
- ・学びの動機づけを高める学習環境
- ・認知特性に対応した学習支援・学習方法
- ・ポートフォリオによる自己評価とルーブリックの活用

特に話題になったのは、評価のあり方と指導環境でした。これらのことについて、米国からスカイプ中継で参加してく

ださったバーンズ亀山先生が、具体例をあげて日本との違いを分かりやすく解説してくださいました。

参加者：一般（学会員・非学会員）31人 学生5人



《参加者の感想》 ・UDについてはよくわかっていたつもりですが、現場ではうまくいかないので参加しました。 ・今日初めてUDLという言葉を知りました。まずは自分の考え方として(生徒が選択する)ということをもっと大事にしたいと思いました。 ・米国のUDLの現状について知ることができました。貴重な学びの機会をいただきました。すべてを日本の教室にダイレクトに導入することは難しいかもしれませんが、自己目標の設定や自己選択の機会の導入はできそうに思います。

UDL 学習体験：漢字検定2級合格を目指そう



脳のタイプによって視覚・聴覚・運動感覚のどこが優位なのかが異なるため、その人が学びやすい学び方も人それぞれで異なります。UDLでは、認知のための多様な方法を提供します。学習体験では、漢字検定2級合格を目標にして、画面に次々と出る漢字を見る「フラッシュカード」、白抜きで印刷された漢字を塗る「塗り絵」、語呂合わせなどを作って暗唱する「音韻ループ」、空中に大きく漢字を空書きする「空中黒板」、ひたすら書いて覚える、タブレットのアプリを活用する、パズルで覚えるなど7つの方法が提供されました。どんな方法だと、意欲が高まり効果あるか、学習者がそれを知ることは、自分の「学び方を考える」ために大事なことだと気づかされました。

ラウンドテーブル

学習体験後、校種別のラウンドテーブルでは「UDLを提供していききたいが教材準備が大変そう。」「学習者の多様な活動を教師が一人で把握するのは困難では?」「苦手意識で学習意欲のない生徒を何とかしたい。」「評価についてExtra Pointの考え

方をどうやって学校に広げるか?」など、日本の現状や課題が議論されました。それに応える形で、スカイプで参加したバーンズ先生からは、現地でどのようにインクルーシブ教育システムが構築されてきたか、また、複数の教師による授業づくりについてなど、お聞きすることができました。

まだまだ学びたいことばかりで、本学会では、今後もUDLの研修会を企画したいと考えています。



次回研修会案内

日時：平成29年11月19日(日) 12月17日(日) 9:00~12:00 13:00~17:00

会場：早稲田大学中野国際コミュニティプラザ115, 116教室

テーマ：「午前・PA（プロジェクトアドベンチャー）手法を用いたファシリテーション講義と体験 午後・「遊ぼう会」子どもへのファシリテーション演習」

講師：鎌田晴美（まなび創造アカデミー） 本田恵子（早稲田大学）

※ 午前のみのお申し込みも承っております。



日時：平成30年1月21日(日) 9:00~16:00 会場：早稲田大学14-716教室

テーマ：「午前・箱庭についての講義と体験 午後・親子箱庭ワークショップ」

講師：横山 将（クリエイションアカデミー） 本田恵子（早稲田大学）